

発行所 利根教育事務所  
 発行人 角田 義行  
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

# 利根・沼田の教育

## 学校教育係 各教科における「単元の課題づくり(設定)」について

1学期の学校訪問において、先生方と授業を振り返る中で、「単元(題材)の課題が明確になると、授業がスムーズに進みますよね。」という言葉いただきました。そこで今回は、小学校国語科を例に「つかむ過程」における「単元の課題づくり(設定)」について説明します。

「はばたく群馬の指導プランII」(国語科)より

**【必要感のある言語活動】**

※単元の課題の立て方  
 ○どのような資質・能力を、どのような言語活動を通して身に付けさせるかを明確にする。

【 A B 】をして(～ができるように)、  
 【 A → (1) 指導事項から 身に付けさせたい資質・能力を明確にする。  
 B → (2) 言語活動例を参考に 児童生徒の実態に合った言語活動を設定する。  
 ※学習指導要領解説国語編 付録4「系統表」を参照

単元名「言葉よりすぐって俳句を作ろう」(小5、光村図書)

A→ 指導事項  
 [知識・技能]  
 (1) オ(語彙)・ク(表現の技法)  
 [思考・判断・表現]  
 B書くこと(1)オ(推敲)・カ(共有)

B→ 言語活動例  
 (2)イ(俳句を作る活動)

**ポイント**

単元の指導事項や言語活動、単元の目標を具体化する。

授業者の思考の流れ・・・

①「感じたこと」「驚いたこと」を表すのに適切な言葉を探しながら俳句に表現してほしいな。  
 ②作った俳句は子ども同士で読み合って感想を伝え合う経験を積ませたいな。初めての俳句作りなのでどのような活動が良いかな。  
 ③作った俳句をもっとふさわしい表現に練り直すためにはどんな活動があると良いのかな。 など

イメージができれば

指導主事から

①日常生活の気付きや思いを十七音で表現することを通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができるようになる子どもの姿を目指しているのですね。  
 ②クラスの実態から句会を開いてはどうですか？言葉の選び方や比喻などの表現の工夫、語順、表記の仕方について、感想や意見を交流させると、言葉の使い方に対する意識が高まりますね。  
 ③ペアやグループなどで言葉や表現の工夫を伝えたり、質問し合ったりすることで、どうしてその表現にしたのか改めて考えたり、もっとふさわしい表現に整えたりして、言葉にこだわって表現することができそうですね。

**ポイント**

各教科の特質や子どもの実態等を踏まえ、目標の達成に向けて、単元を通して主体的に解決できる「単元の課題」を設定する。

時	学 習 活 動
1	・俳句のきまりや表現の工夫に気付き、俳句を作るという言語活動を捉え、単元の課題をつかむ。 <b>【単元の課題：必要感のある言語活動】</b>
2	・自分が作りたい俳句の具体的な場面を決め、俳句を作る。
3	・自分の思いが伝わる俳句になるように、グループで話し合いをする。
4	・できあがった俳句を発表し合い、感想を伝え合う。

必要感のある言語活動を通した「単元の課題」の設定

**【単元の課題】(例)**  
 十七音で日常の気付きや思いをぴったりした言葉で表現し、句会を開こう。

「単元の課題」の設定のポイントは  
**単元の目標を達成した子どもの姿を具体的にイメージする！**  
 「つかむ過程」では、導入を工夫し、教師と子どもたちのやりとりの中で、子どもの思いや気付きなどを整理して「単元の課題」にまとめましょう。

単元(題材)の課題が明確になっていると、児童生徒が単元(題材)の見通しがもて、より主体的に授業に取り組むようになります。「令和の『日本型学校教育』の構築を目指して(中教審答申)」で示された「子供一人一人を主語にした学校教育」の具現化の一つは、「つかむ(である)過程」における児童生徒と行う単元(題材)の課題づくりにあるのではないのでしょうか。



# 生涯学習係 地域学校協働活動を充実させるための「家庭や地域の教育力向上」



指導主事

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に向けて、学校教育係と生涯学習係でまさに連携・協働体制で推進をしているところですが、地域学校協働活動を充実させていくためには、家庭や地域の教育力の向上が大切かと思えます。家庭や地域のためにやっている生涯学習系の事業を説明してください。

現代の諸課題や参加者のニーズを考え、毎年様々なテーマで研修会を開催しています。また、より多くの方が参加できるように、開催日時は土曜日の午後を中心にしています。本年度の上半期に開催した事業は以下のとおりです。



社会教育主事

## 家庭教育支援連携会議 6/24(土)

家庭教育の重要性を再認識し、家庭教育支援の体制整備と、団体等の連携した取組を推進するため、講演、ワークショップを通して、ヤングケアラーの理解と支援に向けてのポイントを学びました。



### ヤングケアラーの理解と家族を支える家庭教育支援

- 『ぐ・げる・がる・り』
  - ・「つなぐ」イメージをもつことからスタート  
気づく → つなぐ必要性を感じる → つなげる  
→ つながる → 支援 → つながりのある環境
- まずはじっくり話を聞くこと、つながりをつくること、信頼関係を築くこと
- 子どもの話にじっくり耳を傾けること
- 子どもにとって必要なことは「問題を解決してくれる人」ではなく「気持ちを受け止めてくれる存在」

## 人権教育研修会① 7/1(土)

人権問題の解決に向けて理解と認識を深め、人権感覚や人権意識を高めるため、講演、ワークショップを通して、性の多様性について学びました。



### 性の多様性について ～誰が尊重され、自分らしく生きていくために～

- よくある誤解を意識する
  - ・理解して接してあげるのではなく、「理解し合う」
  - ・今までに出会ったことがないという誤解
  - ・安易な「相談していいよ」は危険性を含んでいる
- 性の多様性についての認識
  - ・男性か女性かではなく、「性のあり方はグラデーション」
  - ・全ての人には「誰を好きになるか」と「自分の性をどうとらえるか」がある(=『SOGI (ソジ)』)
  - ・「LGBTQを理解しましょう」ではなく、「SOGIを尊重しましょう」という姿勢
- 大人がつくる問題と相談しやすい環境
  - ・日常における指導者・大人の言動から、子どもたちは無意識にその価値観を学ぶ
  - ・アウティング(他者に話すこと)されない「居心地のいい環境」づくり

## 利根沼田幼小中PTA研修会 5/27(土)

PTA活動の振興と家庭教育の重要性について理解を深めるため、講演、ワークショップを通して、『アサーション』の考え方をベースにしたよりよいコミュニケーションについて学びました。



### 自分も相手も大切にするコミュニケーション

- 『アサーション』…相手を尊重しつつ自分の意見を主張するコミュニケーション方法
- 自分がどのタイプなのか意識してコミュニケーションをとることが大切
  - ・自分を優先する『ドクカン攻撃型』
  - ・相手を優先する『おどおど非主張型』
  - ・自分も相手も大切にする『にこにこ主張型』
- 相手に対して、自分を主語にした『I(アイ)メッセージ(私はこう思う)』にすることがポイント

## 地域学校協働活動推進員等研修会 8/4(金)

地域学校協働活動の推進・充実のため、講演、ワークショップを通して、地域と学校の連携・協働に関する理解を深めました。



### 地域と学校がパートナーとなるために

- 熟議によるビジョンの共有
  - ・地域と学校におけるめざす目標や課題の共有、活動内容のすり合わせを行う
- お互いの遠慮を取り払う
  - ・対話を通して地域と学校の信頼関係をつくる
- 居場所の確保、教職員の理解
  - ・地域学校協働活動推進員やコーディネーターが校内で活動しやすい環境をつくる

これらの事業を行ってきました。「人権教育については、上記の研修を生かして、家庭や地域の方の協力を得て『人権集中学習』を行うことができますね。また、ヤングケアラーのことや、アサーションについては、説明や参加された方々の感想などを『便りやホームページ』などでPTAのみなさんにお伝えしたいですね。」という思いを管理職の方がもってくるとうれいです。



社会教育主事